

# 加東市人口ビジョン

(令和4年度改訂版)

### (1) 改訂の趣旨

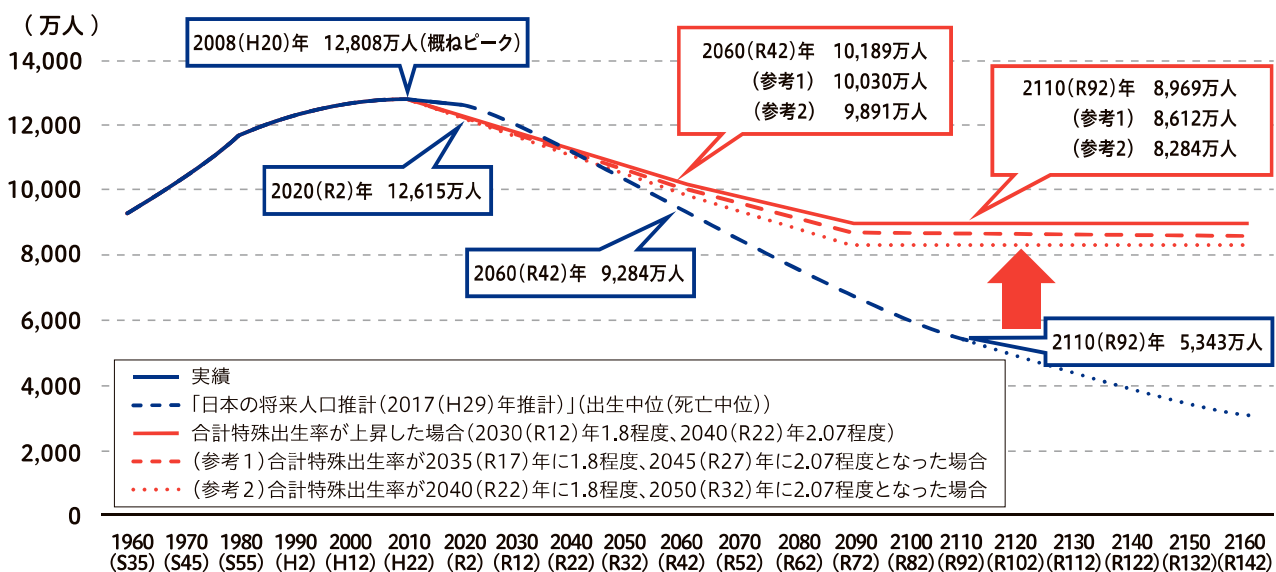
日本の総人口は、2008（平成20）年の1億2,808万人をピークに減少局面に入り、2020（令和2）年の国勢調査ではピーク時より200万人近い人口が減少し、1億2,615万人となりました。また、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が2017（平成29）年に公表した将来人口推計では、2053（令和35）年には1億人を割り込み、2060（令和42）年には9,284万人まで減少すると予測されています。

このような人口減少を克服し、将来にわたって、活力ある地域社会を維持するため、2014（平成26）年11月に「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、地方公共団体においても国の総合戦略等を勘案して、地域の实情に応じたまち・ひと・しごと創生に関する施策についての基本的な計画を策定するよう努めなければならないとされました。

これを受け、本市においても2016（平成28）年3月に「加東市人口ビジョン」及び「第1次加東市総合戦略」を策定し、2018（平成30）年3月に当該人口ビジョンの改訂及び第2次加東市総合戦略の策定を行うことで、地域活力の維持・発展に取り組んできました。

このたび、2020（令和2）年に行われた国勢調査における人口動向や2022（令和4）年度末で計画期間が満了する第2次加東市総合戦略の成果・課題を踏まえ、加東市人口ビジョンを改訂します。

#### 日本の総人口の推移と長期的な見通し



資料：総務省「国勢調査」(2020(R2)年まで)

まち・ひと・しごと創生本部「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(令和元年改訂版)」(2030(R12)年以降)をもとに作成

### (2) 加東市人口ビジョンの位置付け

加東市人口ビジョン(以下「人口ビジョン」という。)は、本市における人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すもので、加東市総合戦略の策定において、重要な基礎となるものです。

なお、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望は、市の最上位計画となる加東市総合計画と整合を図ります。

### (3) 人口ビジョンの対象期間

人口ビジョンは、2060(令和42)年までの長期的な展望を示していますが、次期総合計画基本計画の策定にあわせて改訂するものとします。